

放課後等デイサービス ぴっころんど 事業所自己評価シート

職員による自己評価

※職員13名にアンケート用紙を配布。

うち、7名が回答。

環境・体制整備

利用定員とスペースの関係及びバリアフリー化についてはおおむね適切であると回答しているが、職員の配置数はどちらともいえないが多い。

業務改善

保護者等向けアンケート調査の実施及び活用、ホームページへの公開、職員の研修は評価されているが、業務改善のPDCA実施、外部評価についてはどちらともいえないが多い。

適切な支援の提供

子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析し、子どもの状況に合わせて個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせた計画を作成していると高い評価を得ている。

関係機関や保護者との連携

保護者及び学校との情報共有や共通理解についてと、同年代の子どもとの交流の機会については、高い評価を得ている。

保護者への説明責任等

保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮、子どもや保護者に対する発信について高い評価を得ている。

非常時等の対応

職員に対する研修機会の確保、ヒヤリハット事例集の作成共有についての評価は高いが、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル策定と職員や保護者への周知については課題がある。

保護者による評価

※保護者39名にアンケート用紙を配布。

うち、33名が回答。

環境・体制整備

利用定員とスペースの関係、職員の配置数及びバリアフリー化すべての項目についておおむね適切であると高い評価を頂いている。

適切な支援の提供

支援計画は高い評価を得ているが、放課後児童クラブ等との交流や障害のない子どもと活動する機会があるかについてはどちらともいえないが多い。

保護者への説明責任等

本年度はコロナ禍の影響により保護者会等の行事が無くなったため、保護者同士の連携、支援にやや満足していない傾向がある。それ以外の項目については高い評価を得ている。

非常時等の対応

マニュアル策定、周知、説明、定期的な避難救出訓練について高い評価がされている。

満足度

子どもが通所を楽しみにしており、支援に満足していると、前年に引き続き高い評価を得ている。

事業所内での分析

【共通点】

適切な支援の提供：支援のニーズや課題が話し合いに基づき分析された上で計画表が作成されていることは高い評価を得ている。

保護者への説明責任等：コロナ禍で特別な年となり、家族連絡会は行えなかったが電話等でコミュニケーションを積極的に取り、目標を保護者と共有し発達の状況や課題について共通理解でき、高い評価を得ている。

【相違点】

非常時等の対応：保護者からの評価は高いが、職員からの評価は50%ほどとなっている。

分析・検討してみた…
昨年と比べ改善傾向にあるが、まだ足りないところとして

事業所の強み

密を避ける感染予防対策として、ぴっころんどは広いスペースのため、人との距離を保ちやすい環境を整えることができた。また、それぞれの部屋に窓があり常に換気をすることができた。

感染予防対策として通所自粛の相談をした際も、通所ではない代替的な支援のご利用にご協力してくださった。緊急事態宣言下においても、そのようなご協力があったおかげで、密を避けながら通所を必要とする方を受け入れ、事業を継続していくことができた。子どもたちや保護者との信頼関係を築いてきたことは事業所の強みである。

事業所の改善点

定期的に行っていた家族連絡会はコロナ禍で開催することができなかった。今後、感染予防対策を取りながら開催できるよう方法を探っていく。

また、非常時等の対応については、建物を共有している地域サポート虹と径で連携し、継続してマニュアル策定や訓練を実施しているが、より具体的なぴっころんどとしての対応方法や新たなマニュアルづくりも必要だと捉えている。さらに、スタッフ間の情報共有が課題としてあるので、漏れなく共有ができるよう工夫をしていく。

～事業所の改善への取り組み～

次年度は、家族連絡会の開催に向け、オンラインの活用も含めて開催方法を検討し、実施していく。

非常時等の対応については、常に準備しておかなければならないことだと捉えている。防犯訓練は実施してきたが、マニュアル化はできていないため、防犯マニュアルを作成していく。また、今年度実施できなかった各曜日での避難訓練を実施していくため、現在使用している防災マニュアルをもとに、スタッフや子どもたちと共有・検討していく。その中で、改善点や追記する点を更新していき、非常時への備えを万全にしていく。

～自己評価を行ったの事業所としての感想など～

アンケート内容を検証していく中で、事業所としての課題や強みを改めて認識させていただくことは、大変ありがたい機会をいただいていると思っています。このような自己評価をしていく意味は、子どもたちへの支援の質の向上のためであると捉えていますので、具体的な改善への道程を次年度は、一歩ずつ進んでまいりたいと思っています。今年度、例年行われてきた様々な行事がほとんど中止となる中、隣接する青少年拠点フレンズの場所で、こども家庭支援センターにじと協同し、バスボム作り&ミニ縁日を開催しました。ぴっころんどだけでは開催が難しい状況で、感染予防対策を取りながらの実施でした。その時の子どもたちの笑顔は、人とつながることの楽しさや嬉しさを伝えてくれていると感じました。コロナ禍にあっても、子どもたちが笑顔になれる場所、主体的に過ごせる場所であるように、事業を継続していきます。

事業所名：地域活動ホーム径 放課後等デイサービス ぴっころんど

担当者：管理者 庄司晃洋

児童発達支援管理責任者 水上武史